

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 お話を楽しもう「スーホの白い馬」

2 本単元の目標

- 生まれたばかりのころから心をこめて子馬の世話をしたスーホと、その思いに応える白馬の心の結びつきをスーホの行動を中心に想像を広げながら読み取ることができる。
- スーホと白馬の心の結びつきを読み取るために、「組み合わせた言葉を読む」「繰り返しの言葉を読む」「会話文を読む」「前の場面とつないで読む」読み方を身に付けることができる。
- すすめたい本を選び、題名・作者・あらすじ・好きなところやおもしろいと思うところを書き、紹介し合うことができる。

3 学習指導の考え方

- 本学年の子どもたちは、これまでに、物語文「ふきのとう」「スイミー」「お手紙」の学習では、登場人物のしたことを「～は」「～が」に着目して、あらすじをとらえたり、挿絵と言葉をつないだり、場面の様子を想像したりする力を、また、説明文「たんぼぼのちえ」では、時間を表す言葉に着目して、事柄の順序に気を付けて読む力を身に付けてきている。しかし、会話文にこめられた主人公の気持ちや場面と場面をつないで主人公の気持ちをより深く読み取るとは、十分にはできていない。また、根拠となる叙述をはっきりさせて、人物の様子や気持ちを読み取るともまだ十分ではない。

- 本教材は、貧しくて寂しい身の上だが、大草原の中でのびのびと育った、たくましく優しいスーホと、スーホに大切に育てられ、その思いに応える白馬との心の結びつきを描いた物語である。文章構成は、冒頭6行が全体の「前置き」で、物語全体は「馬頭琴」という楽器の由来話となっている。そして、「結び」の4行で余韻を残して閉じている。前置きと結びに挟まれた部分は、6つの場面構成（スーホと白馬の出会い・羊を守る白馬・殿様に白馬をとられたスーホ・殿様から逃げ出す白馬・スーホのところに戻って死ぬ白馬・死んでもなお一緒にいるために馬頭琴を作って弾くスーホ）になっている。2年生にとってはかなりの長文であるが、起伏に富んだ展開になっているため、子どもたちは物語に引き込まれながら読み進めることができると考える。

また、①「ある日」「あるばん」など時間を表す言葉に着目して、出来事の順序や場面の移り変わりをとらえる読み方、②「たきのように」のたとえを読んだり、「とぶ+おきる」の複合語を読んだりすることで、スーホと白馬の様子や気持ちを想像しながら読む読み方、③繰り返しの言葉や会話文を読んだり、前の場面とつないで読んだりすることで、スーホと白馬の強い心の結びつきを読み取る読み方を身に付けさせるのに適した教材である。

そして、2年生になって読んだ本の中から、友達に読んでもらいたい本を決め、必要なことを考えて紹介し合うことで、読書への興味を高めることができると考える。

- 指導にあたっては、まず、題名「スーホの白い馬」の「の」に着目させ、スーホが飼っている大切な白馬であることをとらえさせる。そして、冒頭の「いったい、どうして、こういう楽器ができたのでしょうか。」という問いの文から、読み通しの目を生み出す。その時、冒頭にスーホの白い馬は登場しないことから、馬頭琴とどんなつながりがあるのだろうという疑問をもたせる。

予見の段階では、時間を表す言葉に着目させ、6つの場面に分けさせる。そして、スーホの言動をもとに場面ごとにあらすじをまとめさせる。

学習計画の段階では、予見をもとに、場面ごとに詳しく知りたいことやよく分からないことを出し合い、スーホと白馬の心の結びつきを読み確かめることを確認し、計画を立てる。

読み確かめの段階では、組み合わせた言葉を読んだり、会話文を読んだり、前の場面とつないで読んだりしながら、場面ごとにスーホと白い馬の心の結びつきを読み確かめていく。

読みのまとめの段階では、今まで読み取ったことを付け加えて、あらすじをまとめさせる。また、ここで使った読み方を確認し、これからの学習に生かせるようにする。

発展の段階では、友達に薦めたい本について、題名・作者・あらすじ・好きなところやおもしろいと思うところを書き、紹介し合うことで読書への興味を高めたい。

4 学習指導計画（全17時間）

次時	主な学習活動	指導上の留意点	学習する読み方
一 読み通しの目	1 読み通しの目をつくることを確認する。 2 題名について話し合う。 3 冒頭について話し合う。 4 題名と冒頭で読み取ったことをつないで、読み通しの目を生み出す。 読み通しの目	○ 既習の学習単元の題名を想起させ、スーホの飼っている大切な馬であることを読み取らせる。（「たぬきの糸車」） ○ 挿絵や写真から、モンゴルの様子や暮らしぶりをとらえさせる。 ○ 冒頭にはスーホや白い馬は出てきていないことに気付かせ、「白い馬」と「馬頭琴」とのつながりに目を向けさせる。 ○ 羊の重要性を補足説明する。	題名を読む 冒頭を読む
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 馬頭琴というがっきができたのには、どんな話があったのだろう。 </div>			
二 予見	1 1 スーホの言動をもとにあらすじをとらえ、予見をまとめることを確認する。 2 音読の練習をする。 3 由来話の中における冒頭を読み、スーホの人柄や生活を読み取る。 1 1 由来話を6つの場面に分ける。 2 場面ごとに、自分で予見をまとめる。 1 1 それぞれが書きまとめた予見をもとに話し合う。 2 クラスの予見を方向付ける。	○ 難語句について意味確認をする。 ○ スーホがどんな少年だったかをとらえさせる。スーホは、両親や兄弟がいなくて寂しい生活をおくっていること、20頭あまりの羊は、生活になくってはならない大事なものであることを押さえる。 ○ 挿絵と時間を表す言葉を手がかりに、場面を分けさせる。 ○ スーホの言動をもとに、一場面一文で書きまとめさせていく。 ○ 子どもたちの考えた予見の相違点について話し合い、場面ごとにまとめさせていく。	時間を表す言葉を読む 挿絵とつないで読む
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ある日、スーホが子馬をつれてきて、心をこめてせわをした。あるばん、白馬がひつじをまもるためにおおかみとたたかったので、スーホは、白馬に兄弟にいうように話しかけた。ある年の春、スーホが白馬にのり競馬に出て、とのさまに白馬をとりあげられかなしんだ。ある日、白馬はとのさまからにげたが、矢で打たれた。そのばん、白馬は、スーホのところへもどってきた。スーホは、はを食いしぼりながら白馬にささっている矢をぬいたが、白馬はしんでしまった。あるばん、白馬がゆめに出てきてがっきの作り方を教え、スーホは、そのとおりにがっきをつくった。こうして馬頭琴というがっきができたという話があった。 </div>			
三 学習計画	1 1 予見の曖昧なところを確かめ、学習計画を立てることを確認する。 2 疑問に思ったことやもっとくわしく知りたいことを出し合う。 3 場面ごとに読み確かめる内容を明らかにする。	○ 予見（あらすじ）から読み確かめる内容を考えさせる。 ○ スーホの言動や白馬への思いを詳しく読み取っていけばよいことに気付かせる。	

四 読 み 確 か め	1	<p>1 子馬をつれて帰って心をこめて世話したスーホの様子や気持ちを詳しく読むことを確認する。</p> <p>2 スーホが子馬をつれて帰ってきた時の様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 スーホが、心をこめて子馬を世話した様子を話し合う。</p>	<p>○ 「だく+かかえる」の複合語を読むことで、大事に持って帰ってきたことを読み取らせる。</p> <p>○ なぜ、にこにこしていたのか考えさせることで、スーホが子馬をつれてきたわけやどんな気持ちで白馬を育てたのかとらえさせる。</p>	<p>たとえを読む</p> <p>組み合わせた言葉を読む</p>
	<p>スーホがね、にこにこして子馬をつれて帰ってきたのはね、生まれたばかりの子馬がおおかみに食べられなくてすんだし、じぶんでそだてられるからだよ。そして、ごはんを食べさせたり、うんどうさせたりして、だいにだいに心をこめて世話をしたんだよ。</p>			
	1 (○ 組 本 時)	<p>1 おおかみから羊を守った時の白馬の様子とスーホの気持ちを詳しく読むことを確認する。</p> <p>2 おおかみの前に立ちふさがって、必死にふせいでいた白馬の様子を話し合う。</p> <p>3 「どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」と言ったスーホの気持ちを話し合う。</p>	<p>○ 「おおかみの前に立ちふさがって」「ひっしにふせいで」「体中あせびっしより」などの叙述をつないで、白馬がスーホの羊を必死に守ろうとしたことをとらえさせる。</p> <p>○ 白馬の思いに深く感謝するスーホの気持ちをとらえさせ、二人の心の結びつきを読み取らせる。</p>	
<p>白馬はね、スーホの生活になくはならないだいなひつじをいのちがけでまもったんだよ。だから、スーホはね、兄弟のように大切だと思ったから、楽しいときでも、かなしいときでも、つらいときでも、どんなときでもいっしょにいたいという気持ちになったんだよ。</p>				
1	<p>1 殿様に白馬をとり上げられたスーホの様子や気持ちを詳しく読むことを確認する。</p> <p>2 かつとなって、夢中で殿様に言い返したスーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 白馬をとられた悲しみがどうしても消えないスーホの気持ちを話し合う。</p>	<p>○ 殿様に言い返せばどのようなことになるか分かっているにもかかわらず、言い返したスーホの気持ちを読み取らせる。</p> <p>○ 殿様の身勝手さをとらえさせるとともに、「どんなときでも、いっしょだよ」という言葉をつないでスーホの白馬に対する思いをとらえさせる。</p>	<p>前の場面とつないで読む</p> <p>たとえを読む</p>	
<p>とのさまに白馬をとられたスーホはね、「これから先、どんなときでもいっしょだよ。」というやくそくをやぶることになってしまった。白馬は、ぼくのひつじをいのちがけでまもってくれたのに、ぼくは、白馬をまもってあげられなかった、とかなしんだんだよ。そして、いじめられていないだろうか、かわいがってもらっているだろうか、ごはんを食べているだろうかと白馬のことばかり考えていたんだよ。</p>				
1	<p>1 殿様の所から逃げ出した白馬の様子を詳しく読むことを確認する。</p> <p>2 殿様の所から逃げ出した白馬の様子を話し合う。</p> <p>3 矢がささっても走りつづけた白馬の気持ちを話し合う。</p>	<p>○ 殿様から逃げる白馬の様子から、スーホへの思いを読み取らせる。</p> <p>○ 「それでも」を読むことで、白馬のスーホのもとに帰りたいという気持ちの強さをとらえさせる。</p>		

	<p>白馬は、矢がさきっても走りつづけたのはね、大すきなスーホのところに、早くもどりたい。どんなときでも、いっしょだよってやくそくしているから、スーホのところへぜったいに帰るんだって思ったからだよ。</p>	
<p>1 (○ 組 本 時)</p>	<p>1 スーホのところへ帰ってきたときの白馬の様子とスーホの気持ちを詳しく読むことを確認する。 2 帰ってきた白馬の様子を話し合う。 3 白馬にささっている矢をぬいているときのスーホの気持ちを話し合う。</p>	<p>○ 「たきのように」「走って、走って、走りつづけて、」の叙述から、苦しくても休まず長い時間、走り続けた白馬の様子を読み取らせる。 ○ 矢をぬいてから、スーホが白馬にどんなことをしたか想像させ、白馬に対する思いをとらえさせる。</p>
	<p>白馬はね、ひどいきずをうけているのに長い時間走りつづけて、大すきなスーホのところへ帰ってきたんだよ。はを食いしぼりながら白馬にささっている矢をぬくときのスーホはね、「どんなときでも、ずっといっしょだよ。」とやくそくしたんだから、しんじゃだめだよという気持ちだったんだよ。そして、水をのませたり、体をなでたりしながら、いっしょうけんめいに手当てをしたんだよ。でも、白馬はしんでしまったんだよ。</p>	
<p>2</p>	<p>1 馬頭琴を作ったスーホの様子や気持ちを詳しく読むことを確認する。 2 スーホのかなしさとかやさしさについて話し合う。 3 夢の中で言った白馬の言葉について話し合う。 4 馬頭琴を作るスーホの気持ちや馬頭琴を弾くスーホの気持ちについて話し合う。</p>	<p>○ スーホにとって、何がかなしいのか、何がくやしいのか考えさせる。 ○ 白馬が夢で馬頭琴の作り方を教えたことと白馬といつもいっしょにいたいというスーホの強い思いをつないで読み取らせる。 ○ 聞く人の心をゆりうごかすのはなぜか話し合わせ、スーホの気持ちをとらえさせる。</p>
<p>五 読 み の ま と め</p>	<p>2</p> <p>1 これまでの読みをもとに題名にもどり、読みをまとめることを確認する。 2 読み確かめたことを振り返り、読みのまとめをする。 3 読み方をまとめる。</p>	<p>○ これまで読み確かめてきたことを、掲示物を活用してまとめさせる。 ○ 児童にどこで、どんな読み方を使ったか発表させることで、学んだ読み方を意識付ける。</p>
<p>六 発 展</p>	<p>3</p> <p>1 友達にすすめたい本を選び、紹介し合うことを確認する。 2 紹介文を書き、内容が分かるように話す。</p>	<p>○ 紹介する内容を提示し、それに沿って紹介文を書かせる。 ○ グループで紹介し合い、感想カードを書かせる。</p>

こそあど言葉を読む

たとえを読む

たとえを読む

繰り返しの言葉を読む

場面をつないで読む

会話を読む

9 本時の展開

配時	学習活動と内容	指導上の留意点
2	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="252 371 769 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おおかみから、ひつじをまもったときの白馬のようすやスーホの気持ちをくわしく読もう。</p> </div> <p>2 疑問につながる大事な言葉を視写して本時場面を音読する。</p> <p>3 「かこいのそばにかけつけた」スーホの様子を話し合う。</p> <p>7 4 おおかみと闘い、羊を守る白馬の様子について話し合う。 (1) 挿絵から白馬の様子を話し合う。</p> <p>(2) 叙述から分かる羊を守る白馬の様子について話し合う。 ・ 前足をふんばっていっしょうけんめい ・ 命がけでまもっている</p> <p>1 3 兄弟に言うように話しかけるときのスーホの気持ちを話し合う。 (1) 「どんなときでも」とは、どんなことをしているときか話し合う。 ・ 気やけがのとき ・ ごはんを食べているとき ・ 草原であそぶとき (2) 兄弟のように話しかけたときのスーホの気持ちを話し合う。</p> <p>1 3 6 本時学習をまとめる。 (1) 話し合ったことを振り返り、スーホの白馬に対する思いをまとめる。</p>	<p>○ 学習計画の時の疑問を確かめ、本時のめあてを確認する。</p> <p>○ 「どんなときも、ぼくはおまえといっしょだよ。」を視写させ、その言葉を意識付けさせる。</p> <p>○ スーホの気持ちを考えながら、読むようにかけをする。</p> <p>○ 「はっと目をさました。」の叙述と、「はねる+おきる」の複合語からスーホの急いだり心配したりしている様子を読み取らせる。</p> <p>○ 挿絵から、白馬の目が真 で、足を ん っている様子から命がけで闘っている白馬の様子を読み取らせる。</p> <p>○ 「立ちふさがって」を動作化させることで一生 命に羊を守る白馬の様子をとらえさせる。</p> <p>○ 「立ちふさがって」「体じゅうあせびっしょり」という叙述から、「ひっしに」という叙述につないで白馬の一生 命さを読み取らせる。</p> <p>○ 「どんなときでも」という言葉から、具体的な を想像させて、どんなことがあってもいっしょにいるという強い思いを感じ取らせる。</p> <p>○ スーホの会話文を三人に音読させて、だれの読み方がどのように かったかを考えさせる。</p> <p>○ 兄弟に言うように話しかけるとは、どのように話しかけるのかを考えさせて、スーホの気持ちをとらえさせる。</p> <p>○ 学習プリントには、書く視点と書き出しを書いておき、めあてからずれないようにまとめさせる。</p>
	<p>(2) 読み方のまとめをする。 ・ 「組み合わせたことばを読む」 ・ 「会話文を読む」</p>	<div data-bbox="252 1758 1414 1908" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>白馬はね、スーホの生活になくはならないだいじなひつじをいのちがけでまもったんだよ。 だから、スーホはね、兄弟のように大切だと思ったから、楽しいときでも、かなしいときでも、つらいときでも、どんなときでも、いっしょにいたいという気持ちになったんだよ。</p> </div>

第2学年〇組

5 本時 (1 / 17)

6 本時の目標

- ひどい をうけながらもスーホのところへ帰ってきた白馬の様子や白馬にささっている矢をぬくスーホの気持ちを読み取り、スーホと白馬の心の結びつきを確かめることができる。
- スーホと白馬の心の結びつきを読み取るために、「前の場面とつないで読む」「繰り返しの言葉を読む」読み方を身に付けることができる。

7 本時指導の考え方

子どもたちは、前時までに、スーホが子馬をつれてきて心を込めて世話をしたこと、スーホの大事な羊を命をかけて守った白馬を見てスーホは白馬を兄弟のように大事に思ったこと、殿様から白馬を取り上げられスーホが悲しんでいること、殿様から必死で逃げた白馬の様子からスーホへの強い思いがあることを読み取り、スーホと白馬の心の結びつきを読み確かめている。

本時は、つきながらもスーホのもとに帰ってきた白馬の様子、白馬に何本もつきささった矢をぬくスーホの様子から、スーホと白馬の心の結びつきの深さを読み確かめる学習である。

指導にあたっては、まず、学習計画で出た疑問を確かめ、本時のめあてを確認する。そして、疑問につながる大事な言葉を視写させ、本時場面を音読する。次に、スーホがはねおき、白馬のもとへかけて行ったことから、スーホのずっと心配していた気持ちを確認し、会える びに気付かせる。そして、「矢が何本もつきささり」や「あせがたきのようながれおちて」という叙述から、白馬がひどい を けていることを読み取らせ、それでも長い時間走り続けて、白馬が一生 命にスーホの所に帰ってきた様子をとらえさせる。それから、「はを食いしばりながら」を動作化させることでスーホの様子を想像させ、白馬にささっている矢をぬいているときのスーホの気持ちを き出しに書かせ、話し合わせる。矢を られたことに対する しさや殿様に対する り、死なないで しいという いなどを考えさせる。さらに、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ」と言いながら、スーホが白馬にしてあげたことを想像させることで、白馬へのスーホの強い思いを読み取らせる。最後に、今日の学習で読み確かめたことをまとめさせる。その時に、めあてからずれないように学習プリントに、はじめの書き出しを書いておく。また、どの「読み方」を使って、スーホと白馬の心の結びつきを読み確かめることができたか確認させ、次の学習に生かしていくことができるようにする。

8 板書例

<p>お話を楽しもう スーホの白い馬 おつか ゆうせう作</p>	<p>めあて スーホのところへ帰ってきたときの白馬のようすと そのときのスーホの気持ちをくわしく読もう。</p>	<p>そのばん のことです。 よるの十時ごろ スーホがねようとしていたとき、 いそいでいる。あわてている。 スーホははねおきて、かけていきました。 ふかくささっている その体には、矢が何本もつきささり たくさん、すくすくいっばい あせが、たきのようながれおちて 長い時間走りつづけている 走って、走って、走りつづけて、 くりがえしを読む 大すきなスーホのところへ帰ってきたのです。</p>	<p>挿し絵 スーホは、はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬきま した。 ・なんてひどいことをするんだ。 ・こんなに矢をうたれてきたかったらう。 ・「どんときでも、ずつといっしょだよ。」とやくそく したんだからしんじやだめだよ。 ・ぜったい、たすけるからね。がんばるんだよ。 ・体をなでた。 ・水をふいた。 ・水をませた。 ・こえをかけた。 ・手あてをした</p>	<p>学しゅうのまごめ 白馬は、ひどいきずをうけているのに長い時間走りつづけて、 大すきなスーホのところへ帰ってきたんだよ。 はを食いしばりながら白馬にささっている矢をぬくときのスー ホは、 「どんときでも、ずつといっしょだよ。」とやくそくし たんだから、しんじやだめだよという気持ちだったんだよ。 そして、水をませたり、体をなでたりしながら、いっしょ けんめいに手当てをしたんだよ。 でも、白馬はしんでしまったんだよ。</p>
------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

9 本時の展開

配時	学習活動と内容	指導上の留意点
2	1 本時学習のめあてを確認する。	○ 学習計画で出た疑問を確かめ、本時のめあてを確認する。
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>スーホのところへ帰ってきたときの白馬のようすとそのときのスーホの気持ちをくわしく読もう。</p> </div>	○ 「はを食いしばりながら」を学習プリントに視写させ、疑問を意識させる。
3	2 疑問につながる大事な言葉を視写し、本時場面を音読する。	○ 3場面からスーホの白馬に対する思いを振り返り、ずっと心配していたことを想起させる。
3	3 白馬がもどってきたときのスーホの様子や気持ちを話し合う。	○ 「つく+ささる」の複合語、「たきのように」のたとえ、「走って」の繰り返しの言葉を読むことで、白馬の様子を想像させ、スーホに会うために一生 命に帰ってきたことをとらえさせる。また、りしていた時間から、スーホがようとする時間までを具体的に考えさせ、長い時間走ってきたことをとらえさせる。
1	4 矢が何本もつきささっても、スーホのところへ帰ってきた白馬の様子を話し合う。 ・矢が何本もつきささり 深くささっている ・あせがたきのように あせがたくさん ・走って、走って、走りつづけて ずっと走って ・長い時間走っている	○ 「はを食いしばりながら」を動作化させることで、力を れて矢を いているスーホの様子を想像させる。
1 7	白馬を けようとするスーホの様子や気持ちを話し合う。 1 白馬にささった矢を、はをくいしばりながらぬくスーホの気持ちをき出しに書き、話し合う。 ・いたかっただろう、しぬんじゃないよ。 2 「しなないでおくれ」を音読し、死にそうな白馬のそばで、スーホがしたことを話し合う。 ・いっしょうけんめいに手当てをしている。 ・体をなでたり、水をのませたりした。	○ 矢を られたことに対する しさ、殿様に対する り、死なないで しいという いなどを考えさせる。 ○ 2～3人指名し音読させ、だれの音読の 方が かったか考えさせ、白馬へのスーホの思いを読み取らせる。 ○ 死にそうな白馬のために、スーホは一生 命に手当てをしたことを想像させる。 ○ スーホと白馬の挿絵を矢 で結ばせ、スーホと白馬の心の結びつきの強さを確認する。 ○ 学習プリントには、書き出しを書いておき、めあてからずれないようにまとめさせる。
1	6 本時学習をまとめる。 (1) スーホは白馬をどのように思い、白馬はスーホの思いにどのように応えようとしていたか2人の心の結びつきを書きまとめる。	
	<p>白馬はね、ひどいきずをうけているのに長い時間走りつづけて、大すきなスーホのところへ帰ってきたんだよ。はを食いしばりながら白馬にささっている矢をぬくときのスーホはね、「どんなときでも、ずっといっしょだよ。」とやくそくしたんだから、しんじやだめだよという気持ちだったんだよ。そして、水をのませたり、体をなでたりしながら、いっしょうけんめいに手当てをしたんだよ。でも、白馬はしんでしまったんだよ。</p>	
	(2) 読み方のまとめをする。 ・ 「繰り返しの言葉を読む」 ・ 「会話文を読む」 ・ 「前の場面とつないで読む」	○ どの「読み方」を使って、スーホと白い馬の心の結びつきを読み取っていったか確認させ、次の学習に生かしていけるようにする。